

第 48 回 幹 事 会

平成 1 9 年 1 2 月 2 0 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

- 資料 1 議事次第
- 資料 2 出席者一覧
- 資料 3 非公開審議事項
- 資料 5 第46回、第47回議事要旨
- 資料 6 諸報告事項
- 資料 7 審議事項
- 資料 8 対外報告 「文化の核となるべき真の自然系博物館の確立を目指して」
- 資料 9 対外報告 「化学系分野における大学院教育改革と国際化に向けて」
- 参考 1 日本学術会議から公表する文書について
- 参考 2 意思の表出の類型に関する各部の意見等
- 参考 3 期の終了と分科会活動の総括等について
- 参考 4 委員会等の運営の在り方に関するアンケートについて
- 参考 5 第152回総会日程案
- 参考 6 今後の予定

日 時 平成19年12月20日(木) 14:00～

議 題

I 非公開議事項

1 委員会関係

- 提案1 連携会員候補者の決定
- 提案2 科学者委員会における小分科会の設置及び委員の決定
- 提案3 外国人会友(仮称)制度検討委員会の委員の決定
- 提案4 国際委員会における分科会の委員の決定
- 提案5 分野別委員会における分科会、小委員会の設置及び委員の決定
- 提案6 分野別委員会分科会の設置期間の延長
- 提案7 地区会議の構成員の変更
- 提案8 研究評価の在り方検討委員会の設置期間の延長

2 その他

- 報告 基礎科学の大型計画のありかたと推進方策検討分科会報告
- 報告 G8学術会議の取組状況

II 前回幹事会以降の諸報告

III 審議事項

1 対外報告

- 提案9 「文化の核となるべき真の自然系博物館の確立を目指して」
- 提案10 「化学系分野における大学院教育改革と国際化に向けて」

2 規則等の改正

- 提案11 「補欠の会員の選考手続について」の一部改正

3 国際会議関係

- 提案12 平成19年度代表派遣(1月から3月実施分)
- 提案13 平成19年度代表派遣の変更(3月実施分)

4 シンポジウム等

- 提案14 「疾病構造の変化を見据えた歯科医療の展開」(シンポジウム)
- 提案15 「明日に向かって生命(いのち)をつなぐ-生命科学の最前線-」(シンポジウム)
- 提案16 「多文化共生--文化人類学の視点から」(シンポジウム)
- 提案17 日本学術会議九州・沖縄地区会議公開学術講演会
- 提案18 IGBP 国際シンポジウム
- 提案19 「東アジア地域における食料流通・食品の安全確保と情報技術の応用」
(シンポジウム)
- 提案20 「新しい時代を切り開く理工系人材 ～産学人材育成 パートナースhip～」
(シンポジウム)

- 提案21 「第1回国際化北極研究シンポジウムFirst International Symposium on the Arctic Research (ISAR-1)」(シンポジウム)

5 後援

- 提案22 国際会議
- 提案23 国内会議

IV その他

第 4 8 回 幹事会（ 1 2 月 2 0 日）出席者一覧

会 長	金 澤 一 郎
副会長	鈴 村 興太郎
副会長	浅 島 誠
副会長	土 居 範 久

第一部	部長	広 渡 清 吾
	副部長	佐 藤 学
	幹事	江 原 由美子
	幹事	小 林 良 彰

第二部	部長	唐 木 英 明
	副部長	北 島 政 樹
	幹事	鷲 谷 いづみ

第三部	部長	海 部 宣 男
	副部長	小 林 敏 雄
	幹事	河 野 長
	幹事	大 垣 眞一郎

事務局	谷 口 局 長
-----	---------

諸 報 告 事 項

第 1 前回幹事会以降の経過報告

- | | | |
|---|------------------------------------|------|
| 1 | 会長等出席行事 | P. 1 |
| 2 | 平成 19 年度日本・カナダ女性研究者交流事業に係る派遣者の選考結果 | P. 1 |
| 3 | 審議付託等 | P. 1 |
| 4 | 賞等の推薦 | P. 2 |
| 5 | 委員会委員の辞任 | P. 2 |

第 2 各部・各委員会等報告

- | | | |
|---|---------------------|-------|
| 1 | 部会の開催とその議題 | P. 3 |
| 2 | 機能別委員会の開催とその議題 | P. 3 |
| 3 | 分野別委員会の開催とその議題 | P. 4 |
| 4 | 課題別委員会の開催とその議題 | P. 10 |
| 5 | 科学者の行動規範に関する検討委員会報告 | P. 11 |
| 6 | 総合科学技術会議報告 | P. 17 |

第 3	慶弔	P. 17
-----	----	-------

第1 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
11 月 23 日 (金)	サイエンスアゴラ 2007 開会基調講演・開会シンポジウム	綱木次長
11 月 26 日 (月)	第7回産学官連携サミット	金澤会長、谷口局長、綱木次長

2 平成19年度日本・カナダ女性研究者交流事業に係る派遣者の選考結果

国際委員会日本・カナダ女性研究者交流分科会（20期・第2回）において、下記の2名を派遣者として選考した。

- 派遣者：有村 奈利子（名古屋大学大学院医学系研究科神経情報薬理学講座 助教）
中島 裕美子（琉球大学遺伝子実験センター遺伝子機能解析分野 准教授）
- 期間：平成20年1月～3月に1週間から10日間程度

（参考：カナダ側派遣者）

- 派遣者：Sarah Perin Otto
- 現職：Full Professor, Department of Zoology, University of British Columbia, Canada
- 期間（調整中）：平成20年2月17日（日）～25日（月）

3 審議付託等

件 名	申 請 者	審議・付託先
シンポジウム「木づかいによる林業再生」	特定非営利活動法人才の木理事長	第二部
「医療グローバル化時代の教育アライアンス国際学術フォーラムー地域参加による健康都市研究の推進と人材育成	国立大学法人東京医科歯科大学「医療のグローバル化時代の教育アライアンス」事業推進責任者	第二部
第29回農業環境シンポジウム「農業・農村における身近な生物多様性の保全と活用をめざして」	独立行政法人農業環境技術研究所理事長	第二部
日本化学連合シンポジウム「次世代の化学を担う人材」	日本化学連合会長	第三部
第8回グリーン・サステイナブル ケミストリーシンポジウム	グリーン・サステイナブル ケミストリーネットワーク会長	第三部

「人間工学啓発のための講演会」	日本人間工学会会長	第二部 第三部
-----------------	-----------	------------

4 賞等の推薦

件 名	照会先	備 考
2008 年ハイネケン賞受賞候補者の推薦について	各部	見送り
2008 年 TRIESTE SCIENCE 賞受賞候補者の推薦について	各部	見送り

5 委員会委員の辞任

言語・文学委員会「文化の邂逅と言語」分科会 中川 久定 (平成 19 年 12 月 17 日付)

医療のイノベーション検討委員会 垣添 忠生 (平成 19 年 12 月 17 日付)

第 2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第一部 拡大役員会 (第 11 回) (12 月 1 日、2 日)

- ①会員候補者・連携会員候補者の選考手続きについて ②第 21 期に向けての
分科会活動の考え方について ③外国人会友の制度について
④「日本学術会議の長期展望」と人文社会科学について ⑤その他

2 機能別委員会の開催とその議題

(1) 選考委員会 (第 21 回) (12 月 10 日)

- ①補欠の会員選考について ②「再任」について ③連携会員の候補者名簿について
(定年により退任する会員関係) ④その他

(2) 選考委員会会員候補者選考実務分科会 (第 1 回) (12 月 10 日)

- ①役員の選任 ②分科会の運営方針について ③会員選考のプロセスについて
④今後のスケジュールについて⑤その他

(3) 選考委員会会員候補者選考実務分科会人文・社会科学分野会員候補者実務小分科会 (第 1 回) (12 月 14 日)

- ①役員の選任 ②小分科会の運営方針について ③会員選考のプロセスについて
④今後のスケジュールについて ⑤その他

(4) 選考委員会会員候補者選考実務分科会理学・工学分野会員候補者実務小分科会 (第 1 回) (12 月 19 日)

- ①役員の選任 ②小分科会の運営方針について ③会員選考のプロセスについて

④今後のスケジュールについて ⑤その他

(5) **科学者委員会** (第32回) 12月13日(木) メールによる持ち回り開催

①日本学術会議九州・沖縄地区会議公開学術講演会の開催について

②地区会議の構成員の変更について

(6) **科学と社会委員会 科学力増進分科会** (第15回) (11月24日)

①シンポジウム報告 (かがわけん科学体験フェスティバル、mini セルフフェスタ 2007 in 東京) ②シンポジウムの進行について ③その他

(7) **国際委員会日英学術交流分科会** (第20期・第3回) (11月28日)

①委員長及び副委員長並びに幹事の選出

②日英アカデミー共同ワークショップの開催について

(1) テーマ及び内容

(2) プログラム案

(3) 開催時期

③今後のスケジュール及び進め方について

(1) 関係委員の追加

(2) Royal Society との事前打合せ

④その他

(8) **G8学術会議分科会** (第8回) (12月4日)

①G8学術会議について ②その他

(9) **G8学術会議分科会** (第9回) (12月5日)

①G8学術会議について ②その他

(10) **G8学術会議分科会** (第10回) (12月10日)

①G8学術会議について ②その他

(11) **G8学術会議分科会** (第11回) (12月19日)

①G8学術会議について ②その他

(12) **国際対応戦略立案分科会** (第6回) (12月1日)

①加入国際学術団体ヒアリング ②その他

(13) **国際対応戦略立案分科会** (第7回) (12月11日)

①加入国際学術団体ヒアリング ②その他

(14) 国際対応戦略立案分科会（第8回）（12月19日）

- ①加入国際学術団体ヒアリング ②その他

(15) 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2007 分科会

（第20期・第7回 平成19年11月21日）

- ①持続会議2007について
②「学術の動向」への掲載原稿について
③持続会議2008について
④その他

(16) 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2008 分科会

（第20期・第1回 平成19年11月28日）

- ①分科会について(委員長の互選・役員の指名・委員の追加等)
②会議概要について(テーマ・日時及び場所等)
③プログラムについて(構成・講演者等)
④各担当者について
⑤今後のスケジュールについて
⑥その他

(17) 国際委員会 日本・カナダ女性研究者交流分科会（第2回）（12月5日）

- ①日本側派遣者の選定について ②カナダ側派遣者の受入れ準備状況について
③その他

3 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 地域研究委員会 人類学分科会（第10回）（11月23日）

- ①多文化共生について②今後の人類学分科会活動について ③GISについて ④その他

(2) 社会学委員会 社会福祉学分科会（第7回）（11月26日）

- ①対外報告書の検討 ②社会福祉系学会学会連絡協議会について ③その他

(3) 心理学・教育学委員会 脳と意識分科会（第2回）（11月26日）

- ①来年度の分科会の運営方針について ②今回の合同シンポジウムの評価と反省について ③次回分科会の開催時期について ④次回シンポジウムのテーマについて ⑤その他

(4) 経営学委員会 経営リテラシー分科会（第4回）（11月29日）

- ①「学校と企業・経営者の交流活動推進委員会の活動と内容」について

報告者：太田 篤（経済同友会 担当執行役） ②その他

(5) **法学委員会 立法学分科会**（第5回）（12月1日）

- ①報告：奥田香子委員「最近の労働立法の傾向と労使自治の機能」について
- ②9月1日開催のシンポジウムについての総括・反省等
- ③対外報告について ④次回以降の予定

(6) **言語・文学委員会 文化の邂逅と言語分科会**（第5回）（12月3日）

- ①「東アジア」の言語/文化の邂逅（野間委員・藤井委員）
- ②分科会の今後の活動方針 ③次回の日程と報告者 ④その他

(7) **心理学・教育学委員会 心と身体から教育を考える分科会**

（第3回）（12月4日）

- ①分科会活動方針の具体化について ②報告書の作成について
- ③シンポジウムの開催について

(8) **法学委員会 法史学・歴史法社会学分科会**（第6回）（12月7日）

- ①全国法学部等アンケート結果の分析 ②大学一年生歴史教養テスト結果の分析 ③その他

(9) **哲学委員会**（第8回）（12月8日）

- ①各分科会の進捗状況について ②今後のシンポジウムの進め方について
- ③FISPソウル大会への対応について ④その他

(10) **哲学委員会 人文知と臨床哲学分科会**（第2回）（12月8日）

- ①基礎学としての哲学・倫理学

(11) **哲学委員会 古典精神と未来社会分科会**（第2回）（12月8日）

- ①古典研究の未来社会的意義について ②今後の分科会活動の方針について
- ③今回のシンポジウムテーマに関連して、分科会としてコミットできる点があるか否かの検討 ④その他

(12) **哲学委員会 いのちと心を考える分科会**（第2回）（12月8日）

- ①分科会の討議の進め方について ②今年度の討議課題について ③その他

(13) **史学委員会 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会**

（第3回）（12月10日）

- ①文部科学省「新しい時代の博物館制度の在り方について」の検討 ②その他

(14) **政治学委員会**（第10回）（12月13日）

- ①平成19年度政治学委員会活動の総括 ②平成20年度政治学委員会・分科会活動方針に関する討議

(15) 心理学・教育学委員会 心理学教育プログラム検討分科会

(第6回) (12月16日)

- ① 対外報告案の審議 ② その他

(16) 社会学委員会 社会福祉学分科会 (第8回) (12月17日)

- ① シンポジウムについて ② 対外報告について ③ その他

(17) 法学委員会 「グローバル化と法」分科会 (第6回) (12月17日)

- ① 報告「グローバル化と政治」田中俊郎先生、「グローバル化と経済」岩井克人先生
② その他

(18) 地域研究委員会 地域情報分科会 (第9回) (12月19日)

- ① 提言案について ② シンポジウムについて ③ その他

第二部担当

(1) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・心理学・教育学委員会合同
行動生物学分科会 (第4回) (11月24日)

- ① シンポジウムについて ② 今後の分科会活動について ③ その他

(2) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 自然人類学分科会

(第5回) (11月24日)

- ① シンポジウムについて ② 今後の分科会活動について ③ その他

(3) 臨床医学委員会 脳とこころ分科会 (第3回) (11月26日)

- ① 神経科学分科会及び脳と意識分科会との合同シンポジウムについて
② その他

(4) 農学基礎委員会 農業生産環境工学分科会 (第8回) (11月27日)

- ① 農業教育関係の検討について ② 生物環境関係の検討について ③ その他

(5) 基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 基礎・臨床医学研究グランドデザイン
検討分科会 (第2回) (11月30日)

- ① 対外報告(提言)について ② その他

(6) 農学基礎委員会 地域総合農学分科会 (第4回) (11月30日)

- ① 分科会シンポジウム「農業農村における新たな資源・環境保全戦略と地域農業
ー滋賀県における取り組みとその展開ー」とそのとりまとめについて
② 分科会の今後の活動方針について ③ その他

- (7) 臨床医学委員会 障害者との共生分科会 (第6回) (12月3日)
① 対外報告 (案) について ② その他
- (8) 臨床医学委員会 腎・泌尿・生殖分科会 (第7回) (12月3日)
① 対外報告のまとめについて ② その他
- (9) 歯学委員会 歯学教育分科会 (第6回) (12月6日)
① 講演会「歯学教育の現状と将来 Part I 診療参加型臨床教育」について
② その他
- (10) 生産農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同 トキシコロジー分科会
(第6回) (12月7日)
① 食の安全分科会・トキシコロジー分科会合同シンポジウムについて ② その他
- (11) 農学基礎委員会 食の安全分科会 (第7回) (12月7日)
① 合同シンポジウムに関する打ち合わせについて ② 今後の活動について
③ その他
- (12) 農学基礎委員会 農学分科会 (第4回) (12月11日)
① 今後の活動方針について ② その他
- (13) 生産農学委員会 応用昆虫学分科会 (第6回) (12月11日)
① 昆虫学関連学協会との合同シンポジウムの準備について ② その他
- (14) 臨床医学委員会・薬学委員会合同 臨床試験・治験推進分科会
(第5回) (12月14日)
① 日本における臨床治験の進捗状況
1) 医師主導型 2) 企業主導型
② 報告書のまとめ方 ③ 今後の分科会のまとめ方 ④ その他
- (15) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会・基礎医学委員会・
薬学委員会合同 ゲノム科学分科会 (第2回) (12月17日)
① ゲノム科学に対する国内外の取組みの現状分析について ② 我が国としての
ゲノム科学の推進方策について ③ その他
- (16) 歯学委員会 (第11回) (12月17日)
【協議事項】
① 2008年における活動の取り組みについて ② 対外報告等について
③ 学協会との合同シンポジウム、ならびに学協会との連携について ④ その他

【報告事項】

- ①各分科会活動報告 ②他領域分科会活動報告

第三部担当

(1) 環境学委員会 環境思想・環境教育分科会 (第4回) (11月22日)

- ①運営委員会報告 ②話題提供:「環境教育推進のための政策提言」
③次回シンポジウムへ向けて ④その他

(2) 総合工学委員会 総合工学企画分科会 (第4回) (11月26日)

- ①第三部会夏季部会報告 ②総会及び第三部会報告 ③第三部拡大役員会報告
④総合工学委員会及び各分科会報告 ⑤意思の表出等について ⑥会員及び
連携会員の推薦及び選出について ⑦若手・人材育成問題について ⑧主催
シンポジウム等 ⑨その他

(3) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・
化学委員会・総合工学委員会合同 基礎科学の大型計画のあり方と推進方策
検討分科会 (第8回) (11月26日)

- ①今後の方針 ②分科会報告のとりまとめについて

(4) 総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会 (第4回) (11月28日)

- ①イノベーションWG報告 ②科研費WG報告 ③知の統合の具体例と今後の
展望 ④小委員会報告 ⑤対外報告書について ⑥その他

(5) 地球惑星科学委員会 国際対応分科会 IAH S小委員会

(第1回) (11月28日)

- ①役員の選出について ②ペルージャ報告 ③IAS Cの発足への対応
④学術会議での水関係委員会発足の動きへの対応 ⑤小委員会委員について
⑥その他

(6) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・
リスク検討分科会 (第4回) (11月29日)

- ①小委員会、WG活動報告 安全の理念について ②大学における安全の管理と教育 ③安
全の理念的側面からの検討 ④対外報告のとりまとめについて
⑤その他

(7) 土木工学・建築学委員会 拡大役員会 (第12回) (11月30日)

- ①各分科会活動報告 ②その他

- (8) 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会 (第5回) (12月1日)
①報告事項 ②PDアンケート結果について ③連合大会ユニオンセッションについて
④その他
- (9) 環境学委員会 自然環境保全再生分科会 (第8回) (12月5日)
①生物多様性総合評価について ②その他
- (10) 物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会 拡大役員会
(第5回) (12月6日)
①学術会議の動向について ②物一研究基盤WGの報告書について
③その他
- (11) 環境学委員会 環境思想・環境教育分科会 (第5回) (12月7日)
①シンポジウム「環境教育 明日への提言」の進行について
②今後の活動について ③その他
- (12) 環境学委員会 環境政策・環境計画分科会 (第3回) (12月7日)
①対外報告について ②その他
- (13) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP合同分科会
(第3回) (12月7日)
①IGBP、WCRP 各 SC の報告 ②IGBP-WCRP 連合案について
③本年度 IGBP シンポジウム ④今後の国際シンポジウムの方向性
⑤日本からの事務局への賛助金支出について ⑥その他
- (14) 環境学委員会(第9回) (12月7日)
①環境学委員会各分科会からの報告 ②連携会員推薦について ③その他
- (15) 数理科学委員会 数学教育分科会 (第5回) (12月8日)
①Earcome 5 の開催について ②次の指導要領の策定状況について ③統計学
教育について ④その他
- (16) 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会 (第11回) (12月10日)
①各ワーキンググループの報告と全体検討会 ②その他 ③ワーキング
グループ別検討会
- (17) 土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会 (第7回) (12月11日)
①3月1日開催予定のシンポジウムについて ②今後の予定について
③その他

- (18) 情報学委員会 ウェブ・メディア社会基盤分科会 (第3回) (12月11日)
①今後の活動方針について
②その他「コンテンツ著作権」に関する意見交換など
- (19) 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会 (第3回) (12月12日)
①学習指導要領の改訂とその対応について ②地学オリンピックについて
③教員養成課程の諸問題について ④今までのセンター試験についての検討
⑤今後の審議と報告について ⑥その他
- (20) 化学委員会 IUPAC分科会 (第3回) (12月14日)
①海外派遣学会及び派遣者の選考について ②2011年世界化学年について
③今後の戦略について ④1年間の活動 報告 ⑤その他
- (21) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会 (第2回) (12月14日)
①分科会の審議内容の確認 ②ワーキンググループの設置について ③その他
- (22) 総合工学委員会 エネルギーと人間社会に関する分科会
(第3回) (12月18日)
①分科会委員による話題提供 ②今後の分科会の進め方 ③その他
- (23) 総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 WFEO分科会
(第7回) (12月19日)
①WFEO インド総会に向けた取り組み ②JFES-IAC の活動について
③我が国の WFEO 活動の強化策について ④その他

4 課題別委員会の開催とその議題

- (1) 生殖補助医療の在り方検討委員会 (第11回) (11月28日)
①生殖補助医療に係る意識調査及び諸外国の現状調査等の結果について
②報告書の論点整理 ③その他
- (2) 水・食料と持続可能な社会委員会 (第2回) (12月10日)
①今後の検討の方向性について ②その他
- (3) 生殖補助医療の在り方検討委員会 (第12回) (12月13日)
①出自を知る権利について ②報告書の論点整理 ③その他
- (4) 医療のイノベーション検討委員会 (第2回) (12月17日)
①論点の整理について ②今後の作業について ③その他

5 科学者の行動規範に関する検討委員会報告

科学者の行動規範に関する検討委員会報告

声明「科学者の行動規範について」

インパクト・レポート

1 声明の内容

(1) 「科学者の行動規範」

科学者が、社会の信頼と負託を得て主体的かつ自律的に科学研究を進め、科学の健全な発展を促すため、科学者個人の自立性に依拠する、すべての学術分野に共通する必要最小限の倫理規範を示した。

(2) 「科学者の行動規範の自律的実現を目指して」

すべての教育・研究機関、学協会、研究資金提供機関が、各機関の目的と必要性に応じて、科学者の誠実で自律的な行動を促すため、「科学者の行動規範」の趣旨に基づく具体的な研究倫理プログラムとして求められる事項の例を列挙した。

2 採択年月日

平成18年10月3日

3 社会的インパクト

学協会・研究教育機関では、日本学術会議「科学者の行動規範」と「科学者の行動規範の自律的実現を目指して」の通知に対し、それらの組織としての採用、あるいは独自の倫理規定、そして疑わしい行為に対する取り扱い規定などを整備するなどの動きにある。例えば、会員約4万人を擁する日本機械学会では、倫理規定の改訂と、論文投稿における不正行為を防止する規則の制定が進められている。

声明「科学者の行動規範について」の公表後、例えば以下のように、複数の公開シンポジウムなどが開催され、科学者コミュニティや一般市民への発信が行われた。

- 1 平成18年11月26日、サイエンスアゴラ2006、シンポジウム「科学者と研究の倫理」、日本科学未来館。
- 2 平成19年1月13日、早稲田大学創立125周年記念ASNeW国際シンポジウム「責任ある研究-日米欧の現状と課題-」、早稲田大学。
- 3 平成19年1月22日、第2回先進的工学教育講演会「科学者の倫理」、東京大学大学院工学系研究科。
- 4 平成19年3月13日、地域科学研究セミナー「科学研究活動の不正防止対策」、日本教育会館。

4 メディア

- ・毎日新聞（平成18年10月3日朝刊）第3面
- ・読売新聞（平成19年3月15日朝刊）第12面

5 考察と自己点検

科学者の行動規範に関する検討委員会では、「科学者の行動規範」を必要に応じて見直すなどして、学術の発展を図り、社会と科学者コミュニティとの健全な関係を確立する努力を行っていく学術会議の方針に沿って、以下のように、声明の内容の周知を図り、また若手研究者にとっての読みやすい参考書を出版し、一般市民向けのシンポジウムを企画開催した。

- 1 学術の動向、2007年1月号、特集「科学者の行動規範」
- 2 「科学を志す人びとへ 不正を起こさないために」、科学倫理検討委員会編（黒川清，浅島誠，御園生誠，松本三和夫，笠木伸英，札野順，佐藤学，猿田享男，池内了，北澤宏一，池勝智恵美），化学同人，2007年10月。
- 3 平成18年11月26日、サイエンスアゴラ2006，シンポジウム「科学者と研究の倫理」，日本科学未来館。

これらはある程度の効果があった、あるいは今後参考書が大学の講義などで使用されることにより若手研究者の理解が進むものと理解しているが、引き続き科学者倫理に関する啓蒙活動を積極的に進める努力を継続すべきと考えている。特に、学術会議のホームページに声明を掲示しただけでは、社会に対する発信の効果は十分でなく、市民の理解を得るための活動や対話の場が必要である。また、学術会議が、研究教育機関での倫理規定導入状況などを一定期間毎に追跡調査して、科学者コミュニティの自律を促していく必要があると言える。

インパクト・レポート作成責任者

科学者の行動規範に関する検討委員会委員長 浅島 誠

疑似科学と戦う科学者も

2/8 朝日「3」

怪しい情報 ネットで指摘

日本学術会議が1月26日、テレビなどで科学実験に関係する人に同会議「行動規範」

の順守を求める異例の会長談話を発表したのは、前日の幹事会で唐木英明・東京大名誉教授の提案が受け入れられたからだった。(二部)

「以前『あるある』に体内でのカルシウムの働きを解説するため出演し、苦い思いをした」と唐木さんは明かす。

唐木さんによると、番組では、同年齢の女性グループで、だれが若く見えるかを複数の人に判断してもらい、カルシウムが高いと若くみえる、という結論を導き出す実験が紹介された。唐木さんは主観的判断が交じる実験に疑問を伝

えたが、放送を見て無視されたことを知ったという。

以来、メディアの健康情報に疑問を抱き続けてきた。科学の不正行為は研究者に限らず許されないという強い意思を表明すべきだと思った。

問題のある疑似科学的な情報から市民を守るため戦っている科学者はほかにもいる。

天羽優子・山形大助教授は「水商売ウオッチング」というウェブサイトを開いてい

る。「磁気処理水」や「活性水」など水をネタに商売をする企業を監視し、科学的におかしいと思う宣伝文句には疑問を指摘している。

営業妨害をするつもりはない。だが、中にはウェブサイ

トを見て腹を立てて、自社情報を削除するよう求めてくる企業もある。対抗のため、抗議メールをそのままサイトに公開し、研究室には訴訟に備えて裁判書類の作成に使うゴム印を用意している。「おかげで刑事告訴には詳しくなつた。腹をくくらないとできません」と笑う。

ブログなどでニセ科学批判をしている菊池誠・大阪大教授(物理学)は「日本で批判活動をしている科学者は数少なく、まったくの多勢に無勢という状態」と話す。

社会への疑似科学のはんらんを問題視した米国では、30年以上前に批判のための科学者団体が旗揚げされた。「日本でもニセ科学批判が、科学者の社会貢献として認められるとうれしい」

最近の納豆ダイエット騒動をはじめとして、テレビで放送されるいわゆる「健康番組」には科学的にみて疑わしいものが散見される。こうしたなか、日本学術会議の金澤一郎会長は「テレビ番組等における『科学的』実験について」次のような会長談話を公表した。

科学

学術会議会長が談話

影響力大きいテレビの健康番組

食品の影響を取り扱うテレビ番組等において、体重、血圧、脳波、血液成分、各種の生理学的因子に対する食品の影響を測定する実験が行われることが多くなった。このような傾向は、科学的事実に基づいた情報発信を行うという点では望ましいものである。

しかし、その実験計画の中には、適切な対照群の設定、投薬的有意差を得るための実験例数の設定、実験データの検証と解釈などの点で、科学研究の基礎的な要件を必ずしも満たしていないものが見られる。こ

のような不十分な実験計画から、不正行為があれば、テレビなどには誤った結論が導かれることになる情報発信、ひいては科学的なものに対する信頼を著しく傷つけかねない。

残念ながら、科学者の研究活動にも、間違った不正行為が起る。日本学術会議は、わが国の科学者コミュニティを代表する立場から、科学者の不正行為の防止に向けて検討を重ね、平成18年10月には「科学者の行動規範について」(声明)を掲載された。

これに加えて、最近、実験データ捏造などの、科学の倫理に反する行為が行われたことが報道された。いうまでもなく、テレビ番組は国民に与える影響が極めて大きく、そこに捏造等の不正行為があれば、テレビなどには誤った結論が導かれることになる情報発信、ひいては科学的なものに対する信頼を著しく傷つけかねない。

「科学者の行動規範について」(声明)は、日本学術会議ホームページ(<http://www.scj.go.jp/>)に掲載されている。

科学に精通した人材不可欠

を公表した。この声明の内容は、テレビ番組等における科学実験の計画・実施に関わる者も、当然、守るべきものである。

◇

論点

3/15読者[12]

テレビ番組と専門家



博達 三藤 里 神

社会技術研究開発センター・研究統括補佐

三菱化学生命科学研究所などを経て
現職。著書に「食品リスク―BSE
とモダンディ」など。39歳。

関西テレビの「発掘」あるある大事典Ⅱによる「納豆ダイエット事件」を契機に、テレビというメディアのあり方に対する議論が盛んになった。そこでは番組制作を取り巻く様々な問題が指摘されている。だが、制作に協力してきた「専門家」のことも、忘れるべきではない。見方を変えれば、そこそが問題の本質かもしれないからだ。

日本学術会議は、近年の科学者の不正行為多発を受けて、昨

科学的正確さ「忘れるな

年「科学者の行動規範」を策定した。今回の問題に対しても、テレビ番組における「実験」も

現代は、あらゆる学術の専門分化が著しく、真つ当な「専門家」であっても、少し分野が異

がその専門性の微妙な差異は、当該分野の専門家でないとなれば分からないのだ。

いずれも、それ自身は決して否定されるべきことではない。だが同時に、その陰で「科学的な正確さ」といった別の側面が犠牲になっている可能性について、我々はもう少し自覚的であるべきだ。そうした配慮は、安易な面白さ・分かりやすさ礼賛にフリーキをかけてことになるし、また間接的に、専門家の社会性を高めることにも資する。

科学の活動の一つと捉え、科学者の倫理的規範を順守すべきとの会長談話を出した。

味もあるはずだ。少なうとも、テレビ番組における専門家への「注意喚起」の意

その結果、「専門家の使い回し」が多発する。メディアに登場する人物の正当性は、メディアへの露出度そのもので担保されるという、循環論法に陥るのだ。もし適切な専門家が、今回の事件を「教訓」に

「あるある」事件は、我々の社会における専門家のあり方にも、大きな課題を投げかけているのだ。

これは表面上は、科学の職能集団からメディアへのメッセージである。だが、この種の番組が科学者や医師などの「専門家」の協力の上に成立していることを考えると、メディアに登場す

許すことになるからだ。

必要だ。しかし、低予算で視聴率競争に迫られる制作現場では、そのような余裕は少ないだろう。もっと言えば、逆説的だ

逐してしまつたろう。それでは我々はどうすべきか。一般に、素人向けに科学的知識を伝える営みは、ポピュラー・サイエンスと呼ばれるが、そこではしばしば「分かりやすさ」が重視される。テレビの場合はその上に「面白さ」が求められるだろう。

「あるある」事件は、我々の社会における専門家のあり方にも、大きな課題を投げかけているのだ。

月刊 学術の動向

日本学術会議
SCJフォーラム

[HOME](#) ▶ [学術の動向](#) ▶ 2007年1月号

[ご購入方法](#) >>

学術の動向 2007年1月

[バックナンバー](#) >>

<< [前月号](#)

[次月号](#) >>

年頭にあたって

日本学術会議会長／金澤一郎  [72KB](#)

特集1 科学者の行動規範

はじめに  [44KB](#)

科学者の行動規範について／浅島 誠  [28KB](#)

科学者の行動規範：残された課題／笠木伸英
 [40KB](#)

行動規範制定に続くべきもの／御園生 誠  [28KB](#)

情報分野の知財と行動規範／田中英彦  [25KB](#)

医学の教育・研究・診療における行動規範について／鈴木莊太郎  [38KB](#)

臨床医学における行動規範／猿田享男  [25KB](#)

忘れてほしくない問題／松本三和夫  [31KB](#)

科学の教育と科学者教育／札野 順  [26KB](#)



学術の動向 2007年1月号

特集2 子どもを元気にする環境とは —政策の現状と評価—

はじめに  [58KB](#)

こどもの成育環境としての都市建築／仙田 満  [38KB](#)

6 総合科学技術会議報告

1 本会議

*第71回

11月28日

- (1) 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価
- (2) 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動（平成18事業年度）に関する所見について
- (3) 科学技術による地域活性化～地域の自立と共生に向けて～
- (4) 大学・大学院の研究システム改革～研究に関する国際競争力を高めるために～
- (5) 平成20年度科学技術関係予算の編成に向けて
- (6) 最近の科学技術の動向

2 専門調査会

なし

3 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・12月13日 *会長出席
- ・12月20日 *会長出席

第3 慶弔

日本学士院新会員（平成19年12月12日選出）

青柳 正規（あおやぎ まさのり）	20期会員	第一部
外村 彰（とのむら あきら）	20期会員	第三部
柏原 正樹（かしわら まさき）	20期会員	第三部
喜田 宏（きだ ひろし）	20期連携会員	
須田 立雄（すだ たつお）	20期連携会員	

審 議 事 項

(対外報告)

- 提案 9 「文化の核となるべき真の自然系博物館の確立を目指して」 P. 1
提案 10 「化学系分野における大学院教育改革と国際化に向けて」 P. 2

(規則等の改正)

- 提案 11 「補欠の会員の選考手続について」の一部改正 P. 3

(国際会議関係)

- 提案 12 平成 19 年度代表派遣 (1～3 月) P. 5
提案 13 平成 19 年度代表派遣の変更 (3 月実施分) P. 7

(シンポジウム等)

- 提案 14 「疾病構造の変化を見据えた歯科医療の展開」(シンポジウム) P. 9
提案 15 「明日に向かって生命 (いのち) をつなぐ - 生命科学の最前線 - 」
(シンポジウム) P. 12
提案 16 「多文化共生ー文化人類学の視点から」(シンポジウム) P. 14
提案 17 日本学術会議九州・沖縄地区会議公開学術講演会 P. 16
提案 18 IGBP 国際シンポジウム P. 17
提案 19 「東アジア地域における食料流通・食品の安全確保と情報技術の応用」
(シンポジウム) P. 18
提案 20 「新しい時代を切り開く理工系人材 ～産学人材育成 パートナー
シップ～」(シンポジウム) P. 19
提案 21 「第 1 回国際北極研究シンポジウム First International Symposium on the
Arctic Research (ISAR-1)」(シンポジウム) P. 20

(後援)

- 提案 22 国際会議の後援 P. 22
提案 23 国内会議の後援 P. 25

9	
幹事会	48

提 案

対 外 報 告

「文化の核となるべき真の自然系博物館の確立を目指して」

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長、応用生物学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・地球惑星科学委員会
合同自然史・古生物学分科会における対外報告を別添のとおり
取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「対外報告」として取り扱うこと

1 0	
幹事会	4 8

提 案

対 外 報 告

「化学系分野における大学院教育改革と国際化に向けて」

1. 提案者 化学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 化学委員会における対外報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「対外報告」として取り扱うこと

1 1	
幹事会	4 8

提 案

「補欠の会員の選考手続について」の一部改正

- | | | |
|---|-------|-----------------------------------|
| 1 | 提 案 者 | 選考委員会委員長 |
| 2 | 議 案 | 「補欠の会員選考手続きについて」の一部改正 |
| 3 | 提案理由 | 補欠の会員の選考を実施するか否かを判断する基準を定める必要がある。 |

「補欠の会員選考手続きについて」（平成１８年６月２２日第１８回幹事会申合せ）の一部を次のように改正する。
次の表により、改正前欄に掲げる規定をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
会員が任期の途中において定年、死亡、辞職又は退職により退任する場合、その後任者となる者（以下「補欠の会員」という。）の選考手続きについては、以下に定める要領に従って行うものとする。 <u>ただし、補欠の会員の選任は、少なくとも補欠の会員となった者が１回の通常総会に出席できるよう、任期末の前年の１０月の総会以前の総会において補欠の会員候補者の承認を行うことが可能な場合に実施することができる。</u>	会員が任期の途中において定年、死亡、辞職又は退職により退任する場合、その後任者となる者（以下「補欠の会員」という。）の選考手続きについては、以下に定める要領に従って行うものとする。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

1 2	
幹事会	4 8

提 案

平成19年度代表派遣（1～3月）

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

- 第19条** 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。
- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	インターアカデミーカウンシル(IAC)理事会	1月28日 ～ 1月30日	3 日	アムステルダム ----- オランダ	金澤 一郎 会員 皇室医務主管	ICSU等分科会 第2区分
2	インターアカデミーカウンシル(IAC)理事会	1月28日 ～ 1月30日	3 日	アムステルダム ----- オランダ	唐木 英明 会員 東京大学名誉教授	ICSU等分科会 第2区分
3	国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP) 執行委員会	1月30日 ～ 1月31日	2 日	アムステルダム ----- オランダ	土居 範久 会員 中央大学理工学部教授	ICSU等分科会 第2区分
4	国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP) 執行委員会	1月30日 ～ 1月31日	2 日	アムステルダム ----- オランダ	武市 正人 会員 東京大学大学院情報理工学系研究科研究科長、教授	ICSU等分科会 第2区分
5	第16回IUPAB国際会議/第18回IUPAB総会	2月1日 ～ 2月7日	7 日	ロングビーチ ----- 米国	曾我部 正博 特任連携会員 名古屋大学大学院医学研究科教授	IUPAB分科会 第1区分
6	第4回IYPE (国際惑星地球年) 各国国内委員会会 合	2月12日 ～ 2月13日	2 日	パリ ----- フランス	佃 栄吉 特任連携会員 独立行政法人産業技術総合研究所 研究コーディネータ	地球惑星科学委員会国際対応分科会 第2区分
7	国際地理学連合土地利用土地被覆変化と農業生 物多様性セミナー	3月7日 ～ 3月11日	5 日	ラクノー他 ----- インド	永見山幸夫 連携会員 北海道教育大学旭川校教授・生涯学習教育研究センター長	地球惑星科学委員会国際対応分科会 第2区分
8	国際地理学連合及び2008年チュニス大会組織委 員会との大会準備委員会	3月24日 ～ 3月29日	6 日	チュニス ----- チュニジア	田邊 裕 特任連携会員 帝京大学経済学部教授	地球惑星科学委員会国際対応分科会 第2区分
9	国際結晶学連合財務委員会	3月31日 ～ 4月2日	4 日	コペンハーゲン ----- デンマーク	大橋裕二 連携会員 高輝度光科学研究センター産業利用推進室コーディネーター	化学委員会IUCr分科会 第2区分

1 3	
幹事会	4 8

提 案

平成19年度代表派遣の変更（3月実施分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり変更すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第21条第2項及び附則第3項の規定に基づくものである。

＜参考＞「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣実施計画の変更等）

第21条 関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画若しくは派遣者の変更をすべき事情が生じた場合は、その理由を付して速やかに会長に通知しなければならない。

- 2 会長は、前項の規定による通知があった場合は、理由を付して改めて幹事会の承認を得るものとする。ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。

附 則

- 3 平成19年度国際学術交流代表派遣実施計画に係る代表派遣については、なお従前の例による。

別紙

会議名称	派遣期間（会期分）	開催地（国）	派遣者	変更内容	変更理由
地球科学国際研究計画（IGCP）第36 回地質科学国際研究計画（IGCP本部 理事会）	2月14日～2月15日 ↓ 2月12日～2月13日	パリ（フランス）	波田重熙	派遣期間の変更	主催者の都合のため
国際北極科学委員会評議会	3月26日～4月2日	サレハルド（ロシア） ↓ スィクティフカフル（ロシア）	神田啓史	派遣場所の変更	主催者の都合のため

1 4	
幹事会	4 8

提 案

公開シンポジウム「疾病構造の変化を見据えた歯科医療の展開」

1. 提案者 歯学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議 歯学委員会 臨床系歯学分科会
2. 共 催：日本歯科医学会、日本歯科医療管理学会
3. 後 援：特定非営利活動法人日本歯科保存学会、社団法人日本補綴歯科学会、社団法人日本口腔外科学会、日本歯科理工学会、特定非営利活動法人日本歯科放射線学会、特定非営利活動法人日本歯周病学会、有限責任中間法人日本障害者歯科学会、有限責任中間法人日本老年歯科医学会
4. 日 時：平成 20 年 1 月 25 日（金）13:00~18:00
5. 会 場：日本学術会議 講堂
6. 議事次第：

開催趣旨

近年の急速な高齢化と生活環境の変化にともなって、疾病構造は急性症状をとともなう感染症から生活習慣と深いかかわりを持つ慢性疾患へと変化している。そのような疾病構造の変化に対応した歯科医療を展開するためには、高齢者に特有の生活習慣と口腔疾患に関する深い理解が必要である。一方、著しい少子化が進むなかで、小児・青少年期よりのう蝕の予防・治療のみならず、生涯における健康と QOL の維持のための礎となる健全な歯列・咬合の育成へのニーズは極めて高い。以上の観点から、少子・高齢化社会における歯科医療の意義と将来の方策を展望する二部にわたるシンポジウムを開催する。

7. プログラム

1) 開会の辞および基調講演

13:00~ 渡邊 誠（日本学術会議第二部会員、臨床系歯学分科会委員長、
東北大学副学長）

2) シンポジウムⅠ：高齢者のニーズに応える歯科医療

司会ならびに座長

古谷野 潔（日本学術会議連携会員、九州大学教授）

市川哲雄（日本学術会議連携会員、徳島大学教授）

13:30~ (1) 「よく老いる”ための口腔疾患治療の考え方」

松下 健二（国立長寿医療センター研究所、口腔疾患研究部長）

13:55~ (2) 「高齢者におけるバイオフィルム対策」

恵比須 繁之（日本学術会議連携会員、大阪大学教授）

14:20~ (3) 「高齢者の咬合維持・回復のフロンティア」（仮題）

赤川 安正（日本学術会議連携会員、広島大学教授）

14:45~ (4) 「高齢者の **ADL** に対応した歯科医療」

植松 宏（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学教授）

15:10~ (5) 討 論

15:30~15:50 休 憩

3) シンポジウムⅡ：小児・青少年期の健康な口腔の育成

— エビデンスに基づく先進的予防・治療 — （仮題）

司会ならびに座長

山本照子（日本学術会議連携会員、東北大学教授）

朝田芳信（日本学術会議連携会員、鶴見大学教授）

15:50~ (1) 「「小児う蝕の撲滅を目指して」大嶋 隆（大阪大学教授）

16:15~ (2) 「先進的医療技術開発推進に係る関連施策の動向」

中谷 祐貴子（厚生労働省 研究開発振興課 課長補佐）

16:40~ (3) 「歯の硬組織の疾患予防と再構築における技術革新」（仮題）

田上 順次（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学教授）

17:05~ (4) 「健康な歯列・咬合の育成と食育」

山本 照子（日本学術会議連携会員、東北大学教授）

17:30～（5）討 論

4）閉会の辞

17:50～（瀬戸暎一 日本学術会議第二部会員、歯学委員会委員長、
鶴見大学教授）

8．分科会の開催

同日分科会を開催

1 5	
幹事会	4 8

提 案

公開シンポジウム「明日に向かって生命（いのち）をつなぐ
ー生命科学の最前線ー」の開催

1. 提案者 第二部部長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議第二部会
2. 協 賛 日本医歯薬アカデミー（予定）
3. 後 援 科学新聞社（予定）
4. 日 時 平成20年2月5日（火）13：00～17：30
5. 場 所 日本学術会議 講堂
6. 部会等の開催 同日第二部会又は同拡大役員会を開催

7. 次 第

（1）開催趣旨

近年、生命科学は目覚ましい進歩を遂げている。生命の本質はどこまで明らかになったのか、人の幸福に資する生命科学は、今後どう進むかを生物学の研究者が明らかにする。さらに、医学、農学、薬学、看護学等の最新の研究成果から、「人のいのちを育み」「まもり」そして、人類が「明日に向かってよりよく生きる」ための将来展望を、先端的な研究をしている科学者が、わかりやすく解説する。

（2）プログラム

総合司会 春日 文子（第二部会員、国立医薬品食品衛生研究所室長）

13：00 開会の挨拶

唐木 英明（第二部部長、東京大学名誉教授）
金澤 一郎（日本学術会議会長、皇室医務主管）

13:15～15:15

1) 生命の仕組みを探る

座長 小原 雄治（第二部会員）

又は御子柴克彦（第二部会員）調整中

① 霊長類からヒトへ（仮題）

斉藤 成也（第二部会員、国立遺伝学研究所教授）

② ヒトゲノム科学から生命を解く

榊 佳之（第二部会員、（独）理化学研究所
ゲノム科学総合研究センター長）

2) 生命を育む

座長 笹月 健彦（第二部会員、国立国際医療センター総長）

① 脳の発生発達（仮題）

大隅 典子（第二部会員、東北大学大学院医学系研究科教授）

② 子どもの生命を育むーヘルスリフォームとしての予防接種ー

五十嵐 隆（第二部会員、東京大学大学院医学系研究科教授）

休 憩

15:30～17:30

3) 生命をまもるーがんとの闘いー

座長 廣橋 説雄（第二部会員、国立がんセンター総長）

① がん診断と治療の将来展望

垣添 忠生（第二部会員、国立がんセンター名誉総長）

② がん治療と薬学

鶴尾 隆（第二部会員、（財）癌研究会癌化学療法センター
所長）

4) よりよく生きる

座長 矢野 秀雄（第二部会員、（独）家畜改良センター理事長）（予定）

① よりよく生きる（ための）世界の看護（仮題）

南 裕子（第二部会員、兵庫県立大学副学長）

② よりよく生きるための食

新山 陽子（第二部会員、京都大学大学院農学研究科教授）

閉会あいさつ 北島 政樹（第二部副部長、国際医療福祉大学副学長）

1 6	
幹事会	4 8

提 案

シンポジウム「多文化共生——文化人類学の視点から」の開催

- 1 提案者 地域研究委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議地域研究委員会人類学分科会、法政大学経済学部学会、国立民族学博物館
2. 日 時 平成20年2月23日（土）13：30 ～ 17：30
3. 場 所 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎 S306（千代田区富士見 2-17-1）
4. 分科会の開催について 同日、分科会を開催
5. 次 第

開催趣旨

グローバリゼーションの時代と言われている。海外で暮らす日本人が増加するとともに、国内で暮らす外国人は急激に増加している。日本の多文化性は、単一民族国家という幻想のもと従来目に触れにくいものだったが、近年それが顕在化しつつあり、多文化共生は日本社会の今後の課題として重要なものとなってきている。このシンポジウムでは、「文化」に正面から取り組んで研究を行ってきた文化人類学が多文化共生という課題に取り組んだ成果を公開する。

開会あいさつ：油井 大三郎（東京女子大学現代文化学部教授、日本学術会議会員）

I 講 演（13：35 ～15：30）

- 1) 竹沢 泰子（京都大学人文科学研究所教授、日本学術会議連携会員）
「多文化共生の歩みと課題」
- 2) 庄司 博史（国立民族学博物館教授）「多言語化する社会」
- 3) 岡田 浩樹（神戸大学大学院国際文化研究科教授）「「多文化共生」というアリーナ（闘技場）と地域社会—神戸における人類学的アクションリサーチの実践を通して—」
- 4) 陳 天璽（国立民族学博物館准教授）「日本における中華学校の現在」

司会進行：山本 眞鳥（法政大学経済学部教授、日本学術会議会員）

Ⅱ 討論など（15:45 ～17:30）

コメンテータ

森 廣正（法政大学経済学部教授）

アンジェロ・イシ（武蔵大学社会学部准教授）

森茂岳雄（中央大学文学部教授）

閉会あいさつ：山本 眞鳥（法政大学経済学部教授、日本学術会議会員）

参加申込方法：必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）をご記入の上、anthro_scj@nifmail.jp、または042-783-2611法政大学経済資料室山本宛、お申し込みください。

*定員（200名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

1 7	
幹事会	4 8

提 案

日本学術会議九州・沖縄地区会議 公開学術講演会の開催

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議九州・沖縄地区会議
- 2 共 催 琉球大学、沖縄学術振興会議、琉球新報社（依頼予定）
- 3 後 援 沖縄県教育委員会（依頼予定）
- 4 日 時 平成 20 年 3 月 1 日（土）13:30～16:30
- 5 次 第

（1）開会挨拶

金澤 一郎（日本学術会議会長）
岩政 輝男（琉球大学長）

（2）特別講演

台風災害（仮題） 真木 太一（琉球大学農学部教授）
地すべり（仮題） 宜保 清一（琉球大学農学部長・教授）

（3）総合討論

桜井 国俊（沖縄大学長）
裁 吉信（沖縄気象台業務課気象・調査室 調査官）
山川 哲雄（琉球大学工学部長）

※ 会場については、公募により決定

1 8	
幹事会	4 8

提 案

IGBP 国際シンポジウムの開催

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記会議を下記のとおり開催すること

記

- (1) 会議名 21 世紀気候変動予測革新プログラム
「GCM と結合される全球植生動態モデルの高度化と検証」国際ワークショップ
『地域および全球植生動態モデルにおける植生境界移動予測の高度化』
- (2) 日 程 平成 20 年 3 月 4 日（火）～ 7 日（金） （4 日間）
- (3) 会 場 地球環境フロンティア研究センター（神奈川県横浜市金沢区昭和町 3173-25）
- (4) 主 催 日本学術会議、海洋研究開発機構・地球環境フロンティア研究センター
- (5) 共 催 Global Land Project、DIVERSITAS、Swiss Federal Institute for Forest, Snow
and Landscape Research

(6) 概 要

本ワークショップは、21 世紀気候変動予測革新プログラム「GCM と結合される全球植生動態モデルの高度化と検証」の一環として企画され、グローバル・ランド・プロジェクト（GLP）の優先活動計画「植生境界移動の予測における不確実性の低減」に貢献する集会である。このワークショップの目的は、急激な気候変化と土地利用変化の影響下における、大空間スケールでの植生動態（特に植生帯境界の移動）の将来予測のための現状整理と将来展望を示すことである。長期的な目標は、生物圏と大気圏のフィードバックを解析する地球システムモデルに組み込むために信頼の足る精度を持つ、既存の植生動態モデルの改訂および新規モデルの創出である。参加者は、事前に、生態的な素過程や、アップスケール理論、シミュレーション手法などについて十分な情報交換を実施する。ワークショップでは、参加者は討議内容を整理し（植物繁殖・分散過程、植物機能タイプの再整理、植生境界固有の生態・物理過程、植生境界移動のシミュレーション手法、土地利用変化との相互作用、空間的なスケール異質性など）、討議結果を総合してレビュー論文として公表する。また、モデル相互比較などの共同プロジェクトについても検討する。

19	
幹事会	48

提 案

公開シンポジウム

「東アジア地域における食料流通・食品の安全確保と情報技術の応用」の開催

1. 提案者 農学基礎委員会委員長、生産農学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議農学基礎委員会 農業情報システム学分会、
日本学術会議農学基礎委員会 食の安全分科会、
日本学術会議生産農学委員会 水産学分会、
日本学術会議農学基礎委員会 農業経済学分会、
東京大学大学院農学生命科学研究科、農業情報学会
2. 共 催 日本農業経営学会（予定）、フードシステム学会（予定）
農業施設学会、農業機械学会、アジア農業工学会
3. 日 時 平成20年3月18日（火）13:00-17:00
4. 場 所 東京大学弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内）
5. 次 第

開催趣旨

輸入農産物に依存するわが国にとって食料の流通と安全確保は重要な課題である。本シンポジウムでは、東アジア地域の農水産物の流通とそこにおける安全確保に向けた課題やリスク認知、コミュニケーション技術、GAPなどの標準化の重要性について、講演とパネルディスカッションを行う。パネルディスカッションでは、東アジア地域のトレーサビリティやGLOBALGAP、コンプライアンスに関する先端的取り組みの紹介を含めて、食料流通・食品の安全確保に向けた課題について討論し、今後の方向を探る。

プログラム

I. 開会挨拶 13:00～

II. 講演 13:15～16:00

- 1) アジア圏の食の流通と安全確保への展望 永木正和 氏 筑波大学
- 2) 食品安全確保の手法とリスク認知 新山陽子 氏 京都大学
- 3) 水産物流通と安全確保技術 一色賢司 氏 北海道大学
- 4) タイおよび東アジアの食の安全とサプライチェーン
Prof. Athapol Noomhorm AIT アジア工科大学
- 5) 韓国の農産物安全システムの現状 Dr. Cheol-Hi Lee 韓国農村振興庁
- 6) 中国における食料の安全確保と農産物貿易 Dr. Min Song 中国農業科学院
- 7) 食の安全確保と情報技術の課題と展望 南石晃明 氏 九州大学

III. パネルディスカッション 16:00～16:50

「東アジア地域における食料流通・食品の安全確保と情報技術の応用」

コーディネータ 二宮 正士 氏 （独）農研機構中央農業総合研究センター

IV. 閉会挨拶：16:50～

20	
幹事会	48

シンポジウム「新しい時代を切り開く理工系人材 ～産学人材育成 パートナシップ～」の開催

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会
応用物理学会 人材育成・男女共同参画委員会
2. 共 催 ITエレクトロニクス 人材育成検討会((社)電子情報技術産業協会 JEITA)
3. 日 時 平成20年3月29日(土) 13:00～17:30
4. 場 所 日本大学理工学部 船橋キャンパス (千葉県船橋市習志野台 7-24-1)

5. 次 第 ＜開催趣旨＞

学生の理工系離れ、大学院博士課程への進学率低下が深刻な今、科学技術立国日本の未来を支えるべき理工系人材の育成が急務となっています。春のシンポジウムでは、応用物理学会として取り組んでいるアカデミックロードマップにおける人材育成クラスターとの共催により、個々人の能力を活かし育てるための国・大学・企業等の取り組みの紹介、産学協調した人材育成にフォーカスします。

パネルディスカッションでは、企業・研究所のトップ・経営層、第一線で活躍する大学人をお招きし、「今こそ必要とされている理工系人材」についてたっぷり時間をとり、激論を戦わせていただきます。また、会場参加型とするために、会員の皆様に事前にご意見・質問などを出していただき、パネルディスカッションの中でご紹介いたします。

＜プログラム＞

開会あいさつ：小舘香椎子（日本女子大学教授、日本学術会議会員）

I 講 演（13:15～13:45）

- 1) 文部科学省の取り組み（仮題）（林幸秀文部科学審議官）
- 2) 経済産業省の取り組み（仮題）（調整中）

II パネルディスカッション（14:00～17:20）

司会 小舘香椎子、荒川泰彦（東京大学教授、日本学術会議連携会員）

パネラー 古池進（松下電器）、東実（東芝）、熊谷修（ソニー）、
関田仁志（サイバーレーザー）、北澤宏一（JST、日本学術会議会員）、
保立和夫（東大）、蒲生西谷美香（東洋大）

閉会あいさつ：石樽崇明（慶應義塾大学）

2 1	
幹事会	4 8

シンポジウム「第1回国際北極研究シンポジウム First International Symposium on the Arctic Research (ISAR-1)」の開催

1. 提案者 環境学委員会委員長
地球惑星科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 地球惑星科学委員会 国際対応分科会
日本学術会議 環境学委員会 IGBP/WCRP 合同分科会
国際北極研究シンポジウム実行委員会
2. 後 援 国立極地研究所(NIPR), 海洋研究開発機構 (JAMSTEC), 宇宙航空研究開発機構 (JAXA), 国際北極研究センター(IARC), 日本科学未来館 (Miraikan)
3. 日 時 平成20年11月4日(火) - 6日(木)
4. 場 所 日本科学未来館 みらいCAN ホール (東京都江東区青梅)
5. 次 第

開催趣旨

近年の地球温暖化に伴う気候変動が、自然界のフィードバックを介して最も顕著に現れると言われているのが、北極圏、およびその周辺の北極域である。2007/2009年に実施される国際極年(IPY)に向けて、国際的な枠組みの中で、北極域における気圏—水圏—陸圏の総合的・学際的な研究が進行中である。北極域の観測網を整備し、そこに内在するさまざまなフィードバック過程を包括的に理解し、地球温暖化の将来予測に役立てるためには、複数の専門分野や学界が北極域という共通のキーワードの下に集結し、密な情報交換により相互理解を深めることが重要課題である。この認識に立って、今後は学術会議や総合科学技術会議の動向を鑑み、また研究者の交流という点からも、これらの北極域に関係した国際会議や国内研究集会を、可能な限り共同で開催することが望まれる。そこで ad hoc な会として北極域研究検討委員会を立ち上げ、国内外の北極域研究者コミュニティの調整を図り、各種の国際会議や国内研究集会を企画実施することを検討した。

北極域研究検討委員会は、次の企画として NIPR による国際シンポジウム、IARC 日本委員会による GCCA、そして JAMSTEC が推進している WCRP/ChC の北極域の活動会合を統合した新たな国際会議として「国際北極研究シンポジウム」を 2008 年 11 月に開催する予定である。そのために、国際北極研究シンポジウム実行委員会を立ち上げて、

開催準備に取り掛かっている。第1回開催ということもあり、便宜上、北極域研究検討委員会が実行委員会を兼ねることにした。このシンポジウムでは、北極域で生起する諸現象を包括的に探求し、先端研究の最新情報を共有することで、北極域科学の総合的議論を深めることを目的とする。北極域の温暖化については、その実態と数値モデルによる将来予測、北極振動の力学的解明とそれに 関連する大気海洋相互作用、大気陸面相互作用の把握、海氷の長周期変動と大気海洋循環との関係について議論する。北極域の水循環に関しては北ユーラシアおよび周辺地域を中心に、水循環・気候変動、植生変動、雪氷・凍土、氷河の縮退、大気・陸面相互作用などをキーワードとして、気候・水循環研究の成果について議論する。そして北極域の生態系に関しては北極域の温暖化とそれに伴う生態系の変化や環境動態研究の新展開、ツンドラ・北方林および海洋生態系の感受性と物質循環、人間活動の影響などについて議論する。

北極域研究に携わる多くの研究者が、「北極域の温暖化」を共通テーマとして、一同に会し、国際的な視野で最新の情報交換を行うことで、本シンポジウムが今後の北極域研究の発展に貢献することを期待している。国内の関連各期間においては、この提案にご賛同いただき、ご協力いただけることを切に望むものである。

開会あいさつ：未定

I シンポジウムの概要（議論を期待している話題）

- 1) 北極気候とシステムの変動
- 2) 北極における大気—海洋—陸上におけるプロセス研究
- 3) 北極システムに取り込まれるフィードバックの理解
- 4) 北極と地球の気候でのフィードバックと影響解析
- 5) 北極に中心を置いた地球および地域的なモデリングの応用
- 6) 北極がアジアの気候に及ぼす影響

II 討論を活発にするために以下のセッションを用意する

- 1) 大気科学と大気化学
- 2) 海洋と海氷
- 3) 水循環、永久凍土、雪氷
- 4) 氷床と氷河
- 5) 陸上生態系と温室効果気体
- 6) 海洋生態系
- 7) 包括的モデリング研究

III 特別セッション

- 1) 北極域の急激な温暖化
- 2) IPY の最近の成果
- 3) 北極研究のアジアフォーラム

閉会あいさつ：未定

2 2	
幹事会	4 8

提 案

国際会議の後援

1 提 案 者 会 長

2 議 案 国際会議を後援すること。

3 提案理由 下記の国際会議について後援の申請があり、「日本学術会議の
行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第38条に基づき、
国際委員会(主催等検討分科会)において審議を行ったところ、
適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。
なお、国際会議の概要は、別紙のとおりである。

記

第7回国際法医学シンポジウム (ISALM)

第36回国際癌医学生物学会(ISOBM2008)

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：第7回国際法医学シンポジウム 英文：Seventh International Symposium ADVANCES IN LEGAL MEDICINE (略称：I S A L M)										
開 催 時 期	平成 20 年 9 月 1 日 ～9 月 5 日 (5 日間)										
開 催 場 所	大阪府 (大阪市中央公会堂)										
主 催 団 体	第 7 回国際法医学シンポジウム組織委員会 日本法医学会										
共 催 団 体	独日法律家協会 法医病理研究会										
母 体 団 体 等	和文：ドイツ法医学会 英文：The German Society of Legal Medicine (略称：DGRM)										
参加予定者数 [参加予定国]	国外 150 人 国内 450 人 計 600 人 [55 ャ国]										
会 議 内 容	基調講演，シンポジウム，市民公開シンポジウム，口演研究発表・討論，ポスター展示発表，セミナー，自由交流集会等										
会 議 議 事 録 等	学会開催の概要について事後報告する予定										
開催経費の財源	<table> <tr><td>参 加 費</td><td>20,200 千円</td></tr> <tr><td>助 成 金</td><td>23,000 千円</td></tr> <tr><td>寄 付 金</td><td>18,100 千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td>1,500 千円</td></tr> <tr><td>計</td><td>62,800 千円</td></tr> </table>	参 加 費	20,200 千円	助 成 金	23,000 千円	寄 付 金	18,100 千円	その他	1,500 千円	計	62,800 千円
参 加 費	20,200 千円										
助 成 金	23,000 千円										
寄 付 金	18,100 千円										
その他	1,500 千円										
計	62,800 千円										
[募 金 団 体]	(窓口となる団体名) 独立行政法人 国際観光振興機構 (JNTO)										
申 請 者	第7回国際法医学シンポジウム組織委員会 組織委員長 前田 均 日本法医学会 理事長 中園 一郎										
連 絡 責 任 者	第7回国際法医学シンポジウム組織委員会 組織委員長 前田 均										

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：第36回国際癌医学生物学会 英文：36th Congress of the International Society for Oncodevelopmental Biology and Medicine (略称：ISOBM 2008)										
開 催 時 期	平成20年10月5日～10月9日（5日間）										
開 催 場 所	東京都（インターコンチネンタル東京ベイ）										
主 催 団 体	第36回国際癌医学生物学会運営委員会										
共 催 団 体	なし										
母 体 団 体 等	和文：国際癌医学生物学会 英文：International Society for Oncodevelopmental Biology and Medicine（略称：ISOBM）										
参加予定者数 [参加予定国]	国外 100 人 国内 400 人 計 500 人 [20 ヶ国]										
会 議 内 容	教育講演，シンポジウム，ポスター発表，意見交換会等										
会 議 議 事 録 等	学会開催の概要について事後報告する予定										
開催経費の財源	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 30%;">参 加 費</td><td style="text-align: right;">20,000 千円</td></tr> <tr><td>助 成 金</td><td style="text-align: right;">2,300 千円</td></tr> <tr><td>寄 付 金</td><td style="text-align: right;">6,000 千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">21,500 千円</td></tr> <tr><td>計</td><td style="text-align: right;">49,800 千円</td></tr> </table>	参 加 費	20,000 千円	助 成 金	2,300 千円	寄 付 金	6,000 千円	その他	21,500 千円	計	49,800 千円
参 加 費	20,000 千円										
助 成 金	2,300 千円										
寄 付 金	6,000 千円										
その他	21,500 千円										
計	49,800 千円										
[募 金 団 体]	（窓口となる団体名） 日本製薬団体連合会（申請中） 井上科学振興財団（申請中） ノバルティス科学振興財団（申請中） 日本万国博覧会記念基金（申請中） 札幌医科大学医師会（申請予定）										
申 請 者	第36回国際癌医学生物学会 運営委員会 会長 今井 浩三										
連 絡 責 任 者	同上										

2 3	
幹事会	4 8

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議
付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審 議 付託先
シンポジウム「木づかいによる林業再生」 ① 主催：NPO 法人才の木、森林・木材・環境アカデミー ② 会期：平成 20 年 1 月 19 日 ③ 場所：京都キャンパスプラザ	特定非営利活動法人 人才の木理事長	第二部
「人間工学啓発のための講演会」 ① 主催：日本人間工学会 ② 会期：平成 20 年 1 月 29 日 ③ 場所：学士会館 320 号室	日本人間工学会 会長	第二部 第三部
「医療グローバル化時代の教育アライアンス国際学術フォーラムー地域参加による健康都市研究の推進と人材育成」 ① 主催：国立大学法人 東京医科歯科大学 ② 会期：平成 20 年 1 月 29 日～31 日 ③ 場所：東京国際交流会館 国際交流会議場（1 月 29・30 日）、文京区シビックセンター（1 月 31 日）	国立大学法人 東京医科歯科大学「医療のグローバル化時代の教育アライアンス」事業推進責任者	第二部
第 29 回農業環境シンポジウム「農業・農村における身近な生物多様性の保全と活用をめざして」 ① 主催：(独)農業環境技術研究所 ② 会期：平成 20 年 2 月 1 日(金) ③ 場所：東京国際フォーラム	独立行政法人 農業環境技術研究所 理事長	第二部
日本化学連合シンポジウム「次世代の化学を担う人材」 ① 主催：日本化学連合 ② 会期：平成 20 年 3 月 5 日 ③ 場所：化学会館（千代田区神田駿河台 1-5）	日本化学連合 会長	第三部

第 8 回グリーン・サステイナブル ケミストリーシンポジウム ① 主催：グリーン・サステイナブル ケミストリーネットワーク ② 会期：平成 20 年 3 月 6 日～7 日 ③ 場所：学術総合センター・一橋記念講堂	グリーン・サステイナブル ケミストリー ネットワーク 会長	第三部
--	--	-----